

eMAXIS 国内債券インデックス

追加型投信／国内／債券／インデックス型



第9期（決算日：2018年1月26日）

作成対象期間

（2017年1月27日～2018年1月26日）

第9期末（2018年1月26日）	
基準価額	11,473円
純資産総額	14,789百万円
騰落率	0.2%
分配金合計	0円

受益者のみなさまへ

投資家のみなさまにはご愛顧賜り、厚く御礼申し上げます。

eMAXIS 国内債券インデックスは、このたび第9期の決算を行いました。

当ファンドは日本債券インデックスマザーファンド受益証券を主要投資対象とし、NOMURA-BPI 総合に連動する投資成果をめざし、運用を行ってまいりました。

その結果、基準価額はベンチマークにほぼ連動する形で推移しました。ここに運用状況をご報告申し上げます。

引き続き、当ファンドの運用方針を堅持し、ベンチマークの動きに連動する投資成果をめざします。

今後とも一層のお引き立てを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。右記〈照会先〉ホームページにアクセスし、「基準価額一覧」もしくは「ファンド検索」から当ファンドのファンド名称を選択することにより、ファンドの詳細ページにおいて運用報告書（全体版）を閲覧およびダウンロードすることができます。
- 運用報告書（全体版）は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社まで、お問い合わせください。



三菱UFJ国際投信

東京都千代田区有楽町一丁目12番1号
ホームページ <https://www.am.mufg.jp/>

当運用報告書に関するお問い合わせ先

お客様専用
フリーダイヤル **0120-151034**
（受付時間：営業日の9:00～17:00、
土・日・祝日・12月31日～1月3日を除く）

お客さまのお取引内容につきましては、お取扱いの販売会社にお尋ねください。

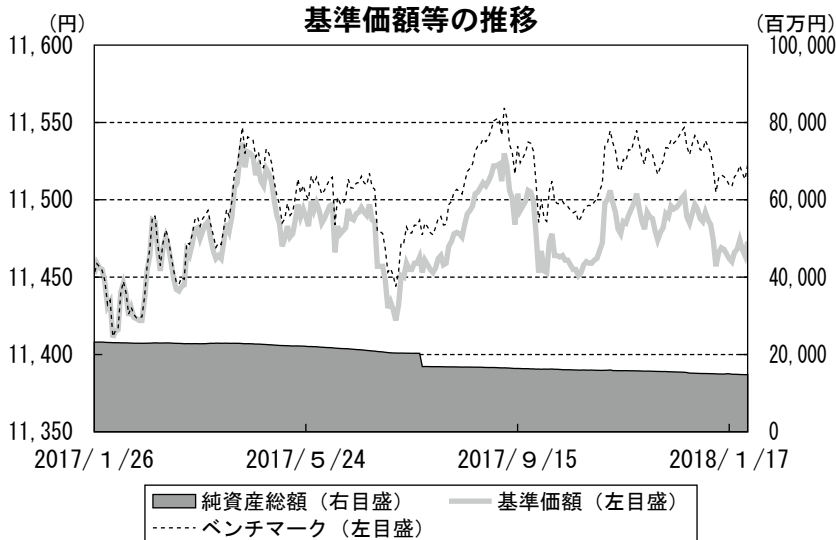
eMAXIS専用サイト <https://emaxis.jp/>

運用経過

当期中の基準価額等の推移について

(第9期：2017/1/27～2018/1/26)

基準価額の動き	基準価額は期首に比べ0.2%の上昇となりました。
ベンチマークとの差異	ファンドの騰落率は、ベンチマークの騰落率(0.6%)を0.4%下回りました。



- ・ベンチマーク(ファンドの運用を行うにあたって運用成果の目標基準とする指標)は、NOMURA-BPI総合です。詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。
- ・ベンチマークは、期首の値をファンドの基準価額と同一になるように指数化しています。

基準価額の主な変動要因

上昇要因	北朝鮮を巡る地政学リスクの高まりや日本銀行による「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」の継続などを背景に、国内債券市況が上昇したことが基準価額の上昇要因となりました。
下落要因	信託報酬等のコストが基準価額の下落要因となりました。

1万口当たりの費用明細

(2017年1月27日～2018年1月26日)

項目	当期		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬	49円	0.428%	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率×(期中の日数÷年間日数)
(投信会社)	(21)	(0.183)	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価
(販売会社)	(22)	(0.191)	交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等の対価
(受託会社)	(6)	(0.053)	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	0	0.000	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料
(先物・オプション)	(0)	(0.000)	
(c) その他費用	0	0.003	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(監査費用)	(0)	(0.003)	ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用
合計	49	0.431	
期中の平均基準価額は、11,479円です。			

(注) 期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

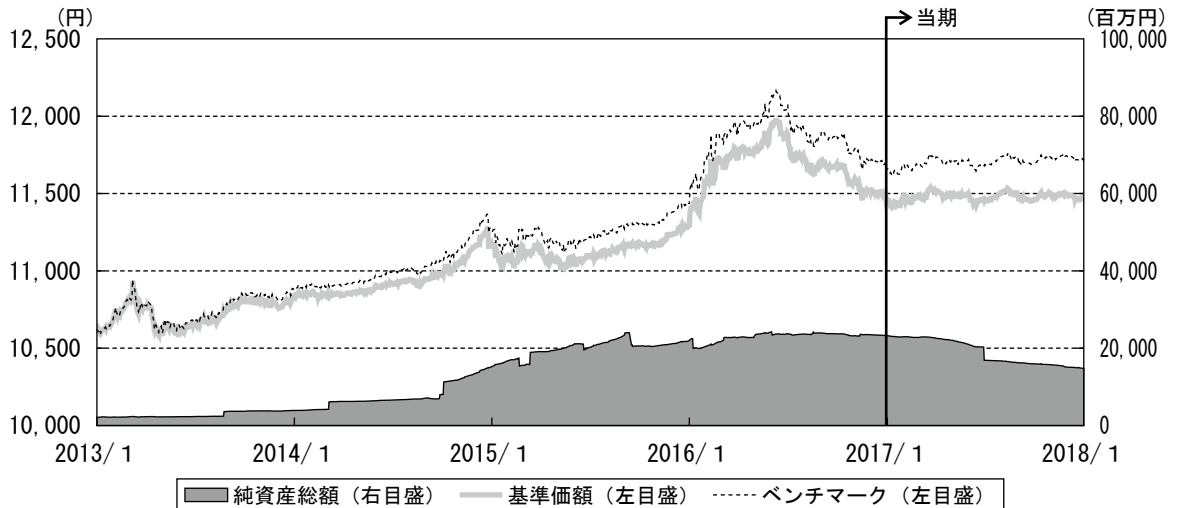
(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 売買委託手数料およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

最近5年間の基準価額等の推移について

(2013年1月28日～2018年1月26日)



・ベンチマークは、2013年1月28日の値を基準価額と同一となるように指数化しています。

最近5年間の年間騰落率

	2013/1/28 期初	2014/1/27 決算日	2015/1/26 決算日	2016/1/26 決算日	2017/1/26 決算日	2018/1/26 決算日
基準価額 (円)	10,621	10,834	11,181	11,287	11,452	11,473
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	0	0	0	0	0
基準価額騰落率	—	2.0%	3.2%	0.9%	1.5%	0.2%
ベンチマーク騰落率	—	2.5%	3.6%	1.4%	1.9%	0.6%
純資産総額 (百万円)	2,131	3,893	15,109	21,850	23,193	14,789

ベンチマークは、NOMURA-BPI総合です。詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

投資環境について

(第9期：2017/1/27～2018/1/26)

◎国内債券市況

- ・北朝鮮を巡る地政学リスクの高まりや日本銀行による「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」の継続などを背景に、国内債券市況は上昇しました。

当該投資信託のポートフォリオについて

< eMAXIS 国内債券インデックス >

- ・資産のほぼ全額を日本債券インデックスマザーファンド受益証券に投資したことにより、基準価額は債券市況とほぼ同様の推移となりました。

< 日本債券インデックスマザーファンド >

基準価額は期首に比べ0.6%の上昇となりました。

- ・資産のほぼ全額を債券（先物を含む）に投資し、高い公社債組入比率を維持しました。
 - ・ベンチマークの構成銘柄を種別や年限等の属性でグループに区切り、ベンチマークの各グループの比率とポートフォリオの同じグループの比率を極力近づけるように、ポートフォリオを構築しました※。
- ※一般的に、このような手法を層化抽出法といいます。

(ご参考)

利回り・デュレーション（平均回収期間や金利感応度）

期首（2017年1月26日）

期末（2018年1月26日）

最終利回り	0.2%	➡	最終利回り	0.2%
直接利回り	1.0%		直接利回り	0.9%
デュレーション	8.6年		デュレーション	8.9年

- ・数値は債券現物部分で計算しております。
- ・最終利回りとは、個別債券等について満期まで保有した場合の複利利回りを加重平均したものです。
- ・直接利回りとは、個別債券等についての表面利率を加重平均したものです。
- ・利回りは、計算日時点の評価にもとづくものであり、売却や償還による差損益等を考慮した後のファンドの「期待利回り」を示すものではありません。
- ・デュレーションは、債券価格の弾力性を示す指標として用いられ金利の変化に対する債券価格の変動率を示します。
- ・デュレーション調整のため、債券先物を組み入れることがあります。この場合、デュレーションについては債券先物を含めて計算しています。

当該投資信託のベンチマークとの差異について

＜eMAXIS 国内債券インデックス＞
ベンチマークとのカイ離は、 $\Delta 0.4\%$ 程度と低水準に抑制し、高い連動性を維持しました。

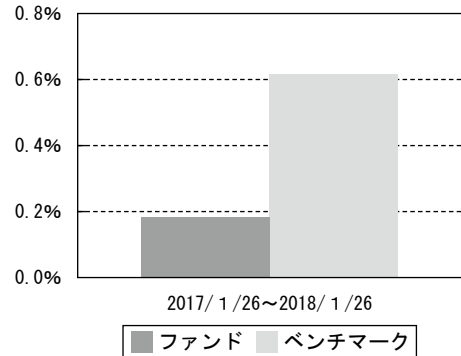
	マザーファンド 保有以外の要因	マザーファンド 保有による要因	合 計
ベンチマーク とのカイ離	$\Delta 0.4\%$ 程度	0.0%程度	$\Delta 0.4\%$ 程度

(注) 四捨五入などにより各要因を合算した値と合計が一致しないことがあります。

◎マザーファンド保有以外の要因
ファンドの管理コスト等は $\Delta 0.4\%$ 程度でした。

◎マザーファンド保有による要因
マザーファンド保有による要因は0.0%程度でした。

基準価額（ベビーファンド）と
ベンチマークの対比（騰落率）



＜日本債券インデックスマザーファンド＞

ベンチマークは0.6%上昇し、カイ離は0.0%程度と低水準に抑制し、高い連動性を維持しました。

	組入比率要因	銘柄選択要因	その他の要因	合 計
ベンチマークとのカイ離	$\Delta 0.0\%$ 程度	$\Delta 0.0\%$ 程度	0.0%程度	0.0%程度

(注) 四捨五入などにより各要因を合算した値と合計が一致しないことがあります。

◎組入比率要因
組入比率による影響は $\Delta 0.0\%$ 程度でした。

- ・ 公社債の実質の組入比率については、期を通じて概ね100%の水準で推移させ、ベンチマークとの連動性を高めるよう努めました。そのため、期を通じて現金の保有による影響は軽微でした。
- ・ ポートフォリオについては、主に層化抽出法に基づき運用を行い、ファンドとベンチマークの値動きや推定トラッキングエラーなどについてモニターし必要に応じて調整を図ることでベンチマークとの連動性を維持するよう努めました。結果、種別および年限構成比については、概ねベンチマーク並みとなっており、影響は軽微でした。

◎銘柄選択要因

銘柄選択による影響は $\Delta 0.0\%$ 程度でした。

- ・年層構成、種別構成、デュレーション、流動性などを考慮して選択した銘柄に分散投資しました。
- ・流動性の問題を勘案し、相対的に格付の低い社債への投資は見送りましたが、影響は軽微でした。

◎その他の要因

取引コストや基準価額とベンチマークの算出に用いる債券評価価格の差異の影響などにより、 0.0% 程度となりました。

分配金について

収益分配金につきましては、基準価額水準、市況動向、分配対象額の水準等を勘案し、次表の通りとさせていただきます。収益分配に充てなかった利益（留保益）につきましては、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用します。

【分配原資の内訳】 (単位：円、1万口当たり、税込み)

項目	第9期
	2017年1月27日～2018年1月26日
当期分配金	—
（対基準価額比率）	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	1,473

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

< eMAXIS 国内債券インデックス >

- ・ベンチマークに連動する成果をめざすべく、ファンドの資産のほぼ全額を日本債券インデックスマザーファンド受益証券に投資し、高い実質公社債組入比率を維持します。

< 日本債券インデックスマザーファンド >

- ・ベンチマークに連動する成果をめざすべく、ファンドの資産のほぼ全額を公社債（先物を含む）に投資し、高い公社債組入比率を維持します。
- ・組入銘柄の見直しと投資比率の調整を適宜行い、種別構成比についてもベンチマークの比率に近づけるように運用します。

お知らせ

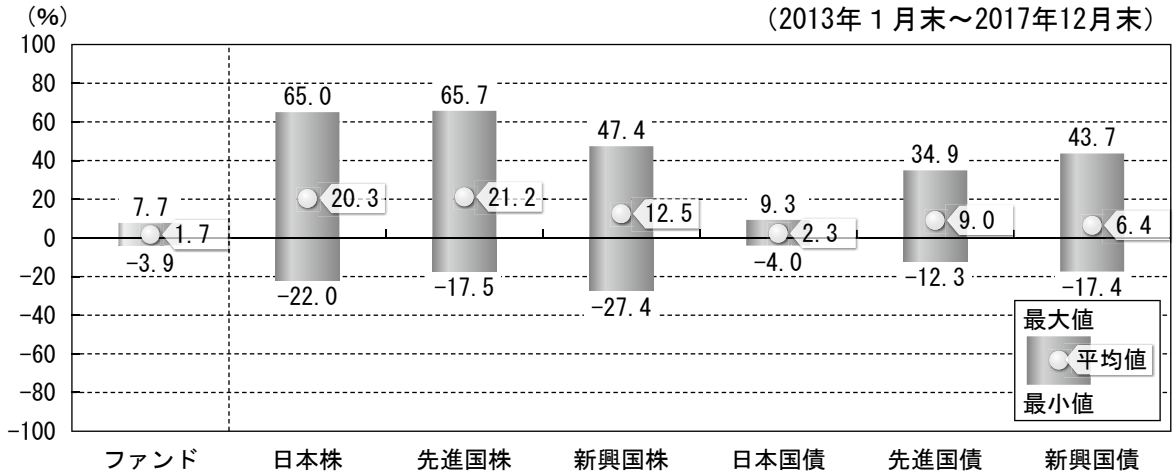
- ①よりわかりやすい記載を目的として目論見書の特色の分配方針に「分配金額の決定にあたっては、信託財産の成長を優先し、原則として分配を抑制する方針とします。（基準価額水準や市況動向等により変更する場合があります。）」を掲載しました。
- ②当社ホームページアドレス変更に伴う記載変更を行うため電子公告のアドレスを変更し、信託約款に所要の変更を行いました。（変更前（旧）<http://www.am.mufg.jp/>→変更後（新）<https://www.am.mufg.jp/>）（2018年1月1日）
- ③2014年1月1日から、2037年12月31日までの間、普通分配金並びに解約時又は償還時の差益に対し、所得税15%に2.1%の率を乗じた復興特別所得税が付加され、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5%（法人受益者は15.315%の源泉徴収が行われます。））の税率が適用されます。

*三菱UFJ国際投信では本資料のほかに当ファンドに関する情報等の開示を行っている場合があります。詳しくは、取り扱い販売会社にお問い合わせいただくか、当社ホームページ（<https://www.am.mufg.jp/>）をご覧ください。

当該投資信託の概要

商品分類	追加型投信／国内／債券／インデックス型	
信託期間	無期限（2009年10月28日設定）	
運用方針	日本債券インデックスマザーファンド受益証券を通じて、NOMURA-BPI総合と連動する投資成果をめざして運用を行います。マザーファンド受益証券の組入比率は高位を維持することを基本とします。	
主要投資対象	当ファンド	日本債券インデックスマザーファンド受益証券を主要投資対象とします。このほか、当ファンドで直接投資することがあります。
	日本債券インデックスマザーファンド	NOMURA-BPI総合に採用されている公社債を主要投資対象とします。
運用方法	わが国の債券市場の値動きに連動する投資成果をめざします。	
分配方針	経費等控除後の利子等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額を分配対象額とし、分配金額は、基準価額水準、市況動向等を勘案して委託会社が決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。	
	分配金額の決定にあたっては、信託財産の成長を優先し、原則として分配を抑制する方針とします。（基準価額水準や市況動向等により変更する場合があります。）	

ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



○上記は、2013年1月から2017年12月の5年間における1年騰落率の平均・最大・最小を、ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて定量的に比較できるように作成したものです。

○各資産クラスの指数

- 日本株 : TOPIX (配当込み)
- 先進国株 : MSCI コクサイ・インデックス (配当込み)
- 新興国株 : MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み)
- 日本国債 : NOMURA-BPI (国債)
- 先進国債 : シティ世界国債インデックス (除く日本)
- 新興国債 : JPMorganGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド

※詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

- ・全ての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。
- ・騰落率は直近前月末から60ヵ月遡った算出結果であり、ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

当該投資信託のデータ

当該投資信託の組入資産の内容

(2018年1月26日現在)

組入ファンド

(組入銘柄数：1銘柄)

ファンド名	第9期末 2018年1月26日
日本債券インデックスマザーファンド	100.0%

・比率は当ファンドの純資産総額に対するマザーファンドの評価額の割合です。

純資産等

項目	第9期末 2018年1月26日
純資産総額	14,789,125,573円
受益権口数	12,890,267,998口
1万口当たり基準価額	11,473円

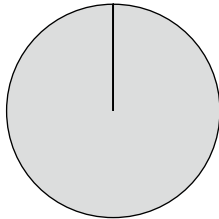
・当期中において
追加設定元本は3,330,601,231円
同解約元本は10,693,345,304円です。

種別構成等

【資産別配分】

コール・ローン等

0.0%

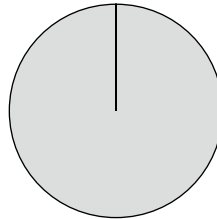


マザーファンド受益証券
100.0%

【国別配分】

その他

0.0%

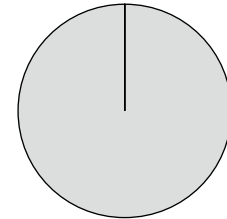


日本
100.0%

【通貨別配分】

円

100.0%



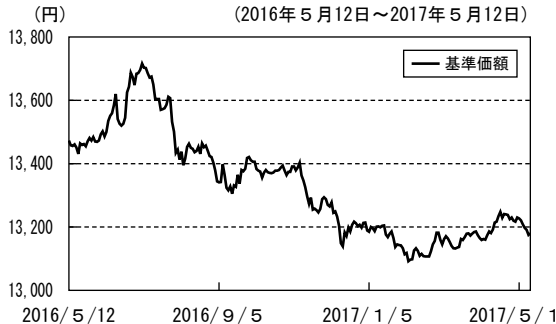
- ・比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。
- ・国別配分の「その他」には、コール・ローン等のように、複数の金融機関等（国内外）を相手先とし他のファンドの余裕資金等と合せて運用しているものを含みます。

組入上位ファンドの概要

日本債券インデックスマザーファンド

(2017年5月12日現在)

基準価額の推移



組入上位10銘柄

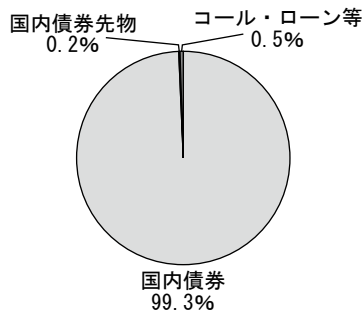
(組入銘柄数：869銘柄)

銘柄	種類	国	業種/種別	比率
1 第130回利付国債(5年)	債券	日本	国債	1.2%
2 第128回利付国債(5年)	債券	日本	国債	1.1%
3 第124回利付国債(5年)	債券	日本	国債	1.1%
4 第329回利付国債(10年)	債券	日本	国債	1.1%
5 第127回利付国債(5年)	債券	日本	国債	1.1%
6 第334回利付国債(10年)	債券	日本	国債	1.0%
7 第339回利付国債(10年)	債券	日本	国債	1.0%
8 第325回利付国債(10年)	債券	日本	国債	0.9%
9 第312回利付国債(10年)	債券	日本	国債	0.9%
10 第342回利付国債(10年)	債券	日本	国債	0.9%

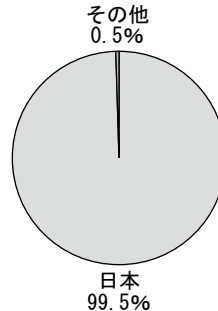
- ・比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。
- ・なお、全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)でご覧いただけます。

種別構成等

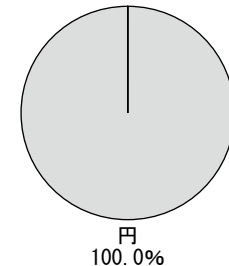
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



- ・比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。
- ・国別配分の「その他」には、コール・ローン等のように、複数の金融機関等(国内外)を相手先とし他のファンドの余裕資金等と合せて運用しているものを含みます。

1万口当たりの費用明細

項目	当期	
	金額	比率
(a) 売買委託手数料	0円	0.000%
(先物・オプション)	(0)	(0.000)
合計	0	0.000

期中の平均基準価額は、13,339円です。

(2016年5月13日～2017年5月12日)

- (注) 1万口当たりの費用明細は、組入れファンドの直近の決算期のものです。費用項目の概要については、2ページの注記をご参照ください。
- (注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
- (注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

968374

指数に関して

○ファンドのベンチマークである『NOMURA-BPI 総合』について

NOMURA-BPI 総合とは、野村證券株式会社が発表しているわが国の代表的な債券パフォーマンスインデックスで、国債の他、地方債、政府保証債、金融債、事業債および円建外債等で構成されており、ポートフォリオの投資収益率・利回り・クーポン・デュレーション等の各指標が日々公表されます。NOMURA-BPI 総合は野村證券株式会社の知的財産であり、当ファンドの運用成果に関し、野村證券株式会社は一切関係ありません。

○「ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較」に用いた指数について

TOPIX（配当込み）

TOPIX（配当込み）とは、東京証券取引所第一部に上場する内国普通株式全銘柄を対象として算出した指数（TOPIX）に、現金配当による権利落ちの修正を加えた株価指数です。TOPIX（配当込み）に関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。東京証券取引所は、TOPIX（配当込み）の算出もしくは公表の方法の変更、TOPIX（配当込み）の算出もしくは公表の停止またはTOPIX（配当込み）の商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

MSCI コクサイ・インデックス（配当込み）

MSCI コクサイ・インデックス（配当込み）とは、MSCI Inc. が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。また、MSCI コクサイ・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc. に帰属します。

MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み）

MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み）とは、MSCI Inc. が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。また、MSCI エマージング・マーケット・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc. に帰属します。

NOMURA-BPI（国債）

NOMURA-BPIとは、野村證券株式会社が発表しているわが国の代表的な債券パフォーマンスインデックスで、NOMURA-BPI（国債）はそのサブインデックスです。わが国の国債で構成されており、ポートフォリオの投資収益率・利回り・クーポン・デュレーション等の各指標が日々公表されます。NOMURA-BPI（国債）は野村證券株式会社の知的財産であり、運用成果等に関し、野村證券株式会社は一切関係ありません。

シティ世界国債インデックス（除く日本）

シティ世界国債インデックス（除く日本）は、Citigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。

J PモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド

J PモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイドとは、J. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが算出し公表している指数で、現地通貨建てのエマージング債市場の代表的なインデックスです。現地通貨建てのエマージング債のうち、投資規制の有無や、発行規模等を考慮して選ばれた銘柄により構成されています。当指数の著作権はJ. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。